

平成23年7月15日

(仮称) 荒川統合保育園建設検討委員会
委員長 松田 昭平 様

(仮称) 荒川統合保育園内部建設検討委員会
委員長 榎本 可世子

統合保育園建設にむけての報告書

保育園職員で構成する内部建設検討委員会では、平成23年5月26日(木)に第1回の検討委員会を開催し、視察を含め、これまで4回の検討会を行いました。これまでの検討した内容を下記のとおりまとめましたので報告いたします。

なお、この検討内容が、今後の(仮称)荒川統合保育園建設検討委員会及びプロポーザル審査委員会に反映されることを願っております。

記

1 統合保育園に望むこと。

(1) 安心・安全でかつ生きる力を培う保育環境を備えた子どもらしい施設であること。

子ども達の健康づくりに配慮した材料を使用し、火災、地震、不審者対応等も想定した安心・安全の施設を希望する。また、夢のある子どもらしい施設であり、たくましさなど生きる力を育てる保育環境として欲しい。たとえば、床暖房については、3歳未満児の保育室は必要であるが、たくましい子どもを育てるためには快適すぎる環境は疑問があり、3歳以上児は不要であると考えます。

荒川地区において、これまで健康な体づくりのために実践している裸足保育を引き続き安全な環境で行いたい。地場産の木材を使用することで、暖かみのある感触を感じ取らせたい。

(2) 200名定員の子ども達が安定して過ごせる機能的な施設であること。

子どもの生活において、活動的に遊びを展開する「動」の場面とゆったりと休息や午睡する「静」の場面がある。同じスペースでも生活の「動」と「静」の両方の場面でも使用できるような機能性を備え、効率よく使えるものとして欲しい。また、クラスの児童数に合わせて、保育室の使い方が柔軟に活用できる機能も備えて欲しい。

障がい児保育については、身体に障がいを持つ児童や発達障がい児等の受入れを考慮すると専用の保育室の設置を要望したい。

限られた敷地面積の中で、地域の子育て支援機能も有しなければならないが、その部分を2階建とすることも可能と考える。

(3) 新エネルギーを取り入れた環境に配慮した施設であること。

環境に優しいクリーンなエネルギーである太陽光発電を利用し、災害や停電などの非常時にも使用できる蓄電システムを連携させた安全で低コストの設備を検討して欲しい。

また、節電の為に、自然光を取り入れた明るさと日差しの加減や通気性を考慮した配置をお願いしたい。

生ごみを減量化については、生ごみ処理機を設置し、給食から出る生ごみを利用した堆肥づくりを行い、食育体験など食育推進に繋げたい。